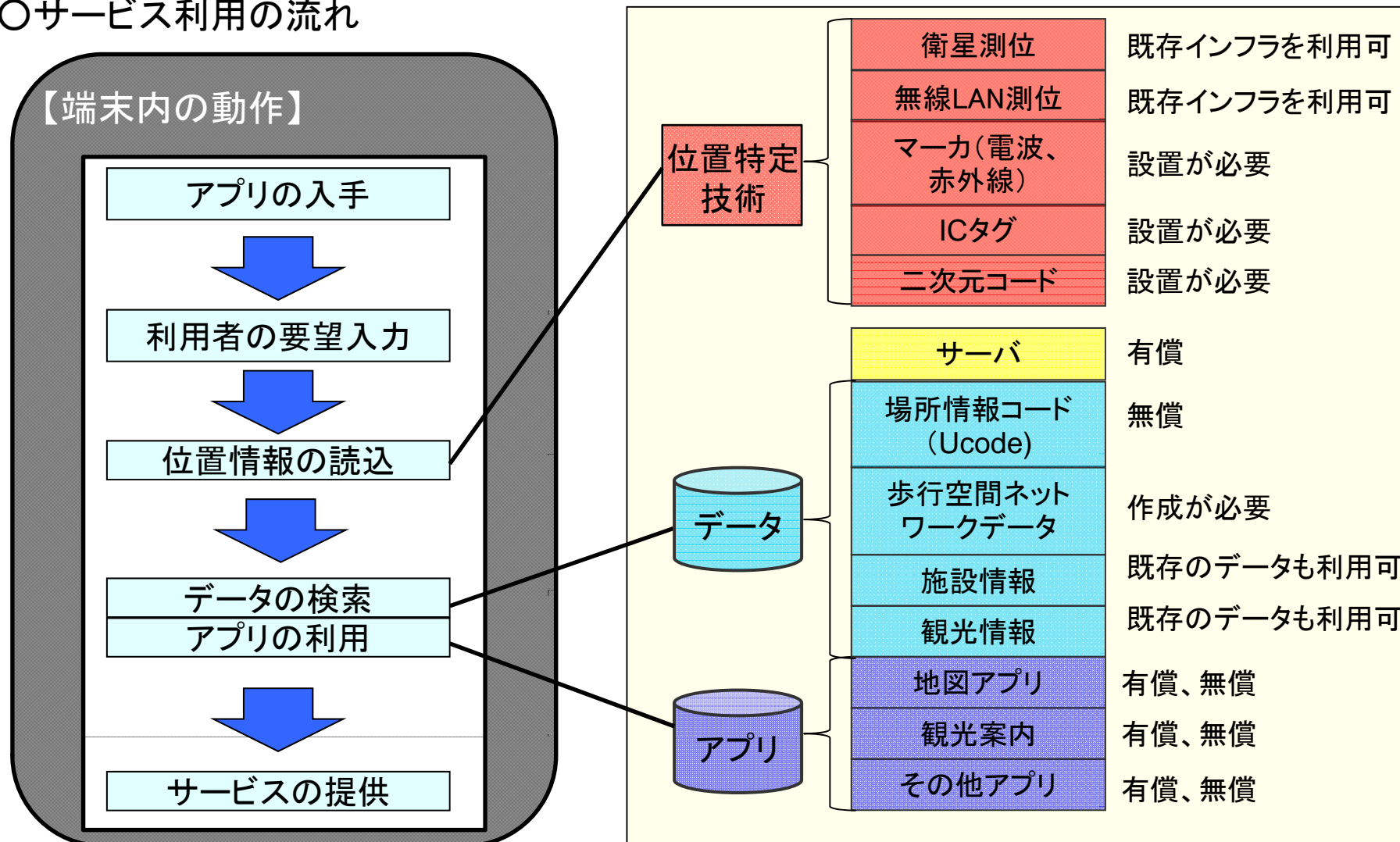


歩行者移動支援サービスの ビジネスモデルについて

平成24年2月29日

歩行者移動支援サービス利用の流れ

○サービス利用の流れ



○既存のインフラやデータを活用することにより安価にサービスの構築が可能
 ○様々なアプリも提供されており、それらを組み合わせて構築することも可能(地図アプリ、バスロケーションシステムなど)

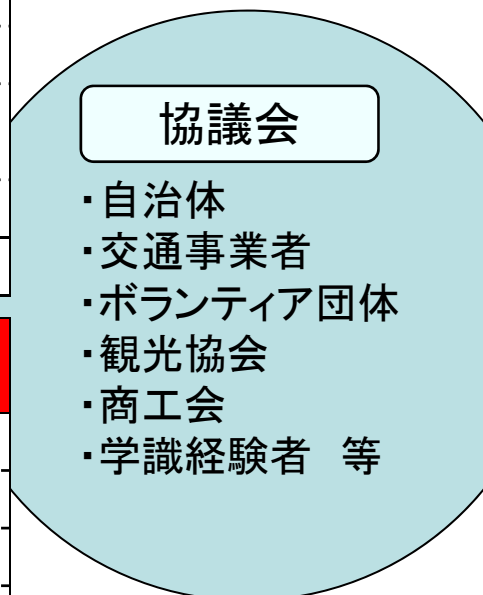
2. 歩行者移動支援サービスにかかる収支項目例

○歩行者移動支援サービスにかかる支出項目の事例及び想定される収入項目

(現地事業(3カ所)のヒアリングより算出)

サービス構築の支出項目(初期費用)	
・位置特定インフラの設置	既存インフラ活用～
・サーバレンタル	約20～70万円
・歩行空間ネットワークデータ(NWD)作成	約20～50万円/km
・携帯端末アプリ作成※1	約570～800万円
合計※2	約790～940万円

サービス維持の支出項目(次年度以降)	
●運営費(年間)	
・位置特定インフラ保守	0～約50万円
・サーバレンタル	約20～70万円
・NWDの維持更新	約50～200万円
・アプリの使用料※3	0～約30万円
合計	約80～240万円
●アプリ改良費※4	約50万円～



サービス実施で想定される収入項目
・携帯端末貸出収入(利用者向)
・広告収入
・システム提供収入(事業者向)
・NWD等データ提供収入(事業者向)
・会費収入※5
・公的資金

※1 バリア情報提供やバリアフリールート検索を想定

※2 NWDの延長を5kmとした場合

※3 携帯端末アプリを作成する際に、有償アプリを使用した場合に必要

※4 改良・追加する内容により異なる

※5 付加価値サービスの利用料、寄付金など

○歩行者移動支援サービスを継続的に運営するためには、サービスの維持に関する支出の縮減や、収入の確保に関する検討を行う必要がある。

○サービスの内容や協議会の構成によって、多様な支出・収入が考えられるのではないかと。

○今後、サービスが各地で展開されるには、様々なビジネスモデルを探っていく必要がある。